

聖学院大学総合研究所 人間福祉学研究
 ソーシャルワーク研究会 主催 福祉のこころ研究会 共催
 2021 年度 ソーシャルワーク研究講演会
 ソーシャルワークに大切なこと～コロナ禍に改めて考える価値～



左上：福澤恵美氏 右上：矢野龍一氏
 左下：小沼聖治助教 中央：山田将人氏 右下：川田虎男氏

2022年2月26日（土）に、ソーシャルワーク研究講演会「ソーシャルワークに大切なこと～コロナ禍に改めて考える価値～」が開催された。ZOOMによるオンライン形式で、参加者は計58名であった。本講演会は2部構成で、第1部は本学の卒業生・在校生計4名によるシンポジウムとして、実習や実践現場を通して見えるソーシャルワークに大切なことが語られた。

最初に福澤恵美氏（4年次・社会福祉士志望）より、児童養護施設における子どもたちとのかかわりにおいて、無視されてもあきらめずに声をかけ続けたことで、信頼関係の構築へつながったという報告がなされた。次に矢野龍一氏（4年次・精神保健福祉士志望）より、精神科医療や生活支援における特別扱いによって、当事者の可能性を奪ってしまう恐れがあるという疑問を抱き、個人の可能性や強みを認識することの必要性が語られた。

前半の在校生2名の実習経験の語りより、ソーシャルワークにおいて、①かかわり続けることの意義や②結果だけではない関係構築プロセスの重要性、③迷ったときこそ当事者の自己実現に立ち戻り、④偏見や差別という社会的障壁と向き合うことの大切さを学ぶことができた。

続いて、山田将人氏（オリーブデスク・精神保健福祉士）より、キャンパスソーシャルワーカーとして、教職員との協働関係の構築に向けた地道

な活動や、学生の力と信じて・温めることで自己実現に寄り添う実践の意義について語られた。最後に、川田虎男氏（ボランティア活動支援センター・社会福祉士）より、ボランティア活動の支援において、失敗し成長する場を保証するために、学生の力を信じ抜くことや、活動意欲が高まる場づくりの大切さが語られた。

後半の卒業生2名の語りより、ソーシャルワークにおいて、①人生の主人公はあくまでも当事者であるという認識、②成長の可能性への信頼こそが自己肯定感の向上を促すこと、③失敗する権利の最大限の保証が最大の成功体験につながるという学びを得た。そして、かかわりを通じて、④ソーシャルワーカー自身も成長できることがソーシャルワークの醍醐味であると感じられた。

第2部では、精神保健福祉領域をはじめ、多様なソーシャルワーク実践経験を積まれている富島喜揮先生（四国学院大学社会福祉学教授）より、「かかわり」を中軸とした「ソーシャルワークに大切なこと」をテーマとした講演があった。かかわりの内実として、①ソーシャルワーカーの手の内を明かす（自己開示）が不可欠であること、②自身の不都合や失敗をごまかすことなく、水平な関係の構築を目指すこと、③人と環境の調整には、当事者の力を信じ活用することも含まれるといったソーシャルワークの核へとつながるメッセージが伝えられた。



左：富島喜揮先生

右：柏木昭名誉教授

全体を通じて、柏木昭名誉教授より、「ソーシャルワークに大切な価値」に関する講評を頂戴した。改めてソーシャルワーカーのかかわりの武器は自分自身であり、自己開示や自分を活用し感性を磨き続けることの重要性についての示唆があった。

コロナ禍の状況において、人と人とのつながりが分断されやすい今だからこそ、ソーシャルワークの原点を振り返り、「かかわり」の本質に迫ることのできる貴重な機会となった。

(報告者：小沼聖治 [おぬま・せいじ] 聖学院大学
心理福祉学部心理福祉学科 准教授、ソーシャル
ワーク研究会 研究員)

聖学院大学総合研究所

「人間福祉スーパービジョンセンター」のご紹介

人間福祉スーパービジョンセンターは、福祉の現場で働く方に対し、以下の4つのプログラムを提供しています。現場での戸惑いや失敗など、壁に直面した際は、一人で悩まず、当センターのスーパービジョンをぜひ活用ください。

- 【1】個別スーパービジョン
- 【2】グループスーパービジョン
- 【3】研修交流会（ピア・スーパービジョン）の開催（年2回）
- 【4】スーパーバイザー支援制度



プログラムのご案内

●お問合せ・お申込み先●

〒362-8585 上尾市戸崎1-1

TEL : 048-725-5524

URL : <https://www.seigresearch.jp/spv/>

e-mail : research@seigakuin-univ.ac.jp